

# CYBER WORLD

マザックワールドコミュニケーションマガジン

New Year's Greeting

## 年頭ご挨拶

特集

## ヤマザキマザック 工作機械博物館 開業

Customer Report

- 07 扶桑鋼管グループ
- 09 株式会社 リガーマリンエンジニアリング
- 11 OEB S.r.l
- 13 MAZAK PEOPLE
- 14 News & Topics
- 15 美術館情報



2020  
No. 59



ヤマザキ マザック  
工作機械博物館

THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF MACHINE TOOLS



# 2020

## NEW YEAR'S GREETING

## 年頭ご挨拶

ヤマザキマザック株式会社  
代表取締役社長 山崎 高嗣

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年、日本では新しい元号「令和」が始まり、当社では創業100周年を迎えました。100周年という節目の年にあたり、6月に経営基盤の強化のために現会長の山崎智久よりたすきを受け継ぎ社長に就任いたしました。工作機械は生産財でありお客様との関係が比較的長く続くことから、経営者や経営理念により醸し出される社風が継承されていくことが大切であります。当社の良き社風を守っていく「不易」とその時々環境変化に伴い絶えず柔軟に変化する「流行」の二つのバランスをうまく取って会社を発展させて参ります。

その上で、長年国内外の営業に携わってきた私自身の経験も生かして、今まで以上にお客さまの視点に立った製品開発やソリューション・アフターサービスの提供に力を入れて参ります。世界中のお客様の製造現場を訪ね、工作機械事業・レーザ事業・ソリューション事業に対する商品やサービスについての意見を直接お伺いすることにより、お客様との信頼関係をより強固なものにすることができればと考えております。

昨年、100周年記念事業として「ヤマザキマザック工作機械博物館」を開業いたしました。「ものづくり」の大切さを後世に伝えられる博物館を設立したいという先代会長 山崎照幸の遺志を継いで、現会長が数年前にプロジェクトをスタートさせました。工作機械に特化した世界的にも珍しい博物館として多数のメディアにも取り上げていただき、オープン当初より多くの皆様にご来館いただいております。この博物館を通じて、若い人を含むより多くの方々に「ものづくり」には欠かせない工作機械とはどのようなものかを知ってもらったり、「ものづくり」に関心を持ってもらったりすることで、次世代の製造業を担う人材育成や製造業全体の発展に貢献することができれば嬉しく思います。

当社では「Mazak iSMART Factory™」と呼ばれる独自のスマートファクトリー化を国内外の生産拠点で進めております。その一環として昨年、岐阜県美濃加茂市にある2つの生産拠点をIoT技術でデジタル統合し、大規模スマートファクトリーを構築いたしました。生産設備や生産管理システムをIoT技術でつないだり、最新の加工技術や物流管理システムを導入したりすることにより、広義のリードタイムを短縮して生産性を高めることを可能としました。また、AIやデジタルツインなどの技術を積極的に自社の設備投資に取り入れることで得られるノウハウを、商品に反映していくことができるのも当社の強みであります。

近年、製造業は、労働人口の減少・人件費の高騰・熟練作業者不足などの課題に直面しております。こうした中、自動化に対する商品力強化はもちろんのこと、お客様が導入しやすい形での自動化提案と、スマートファクトリーのようなIoT技術の活用により、工場経営全体の生産性向上のお手伝いをしていくことが、私ども工作機械メーカーの使命だと認識しております。

今年は次の100年に向けての歩みを開始する年であります。社員一同が経営理念と行動指針を改めて心に刻み、お客様の真の価値である生産性向上に貢献できる製品やサービスを提供することで、お客様のパートナーとしてご信頼いただけるように国内外のヤマザキマザックグループが一丸となって力を尽くして参ります。

本年も尚一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝を祈念申し上げます。





## ヤマザキマザック工作機械博物館 開業

自動車や航空機をはじめ、身の回りの工業製品は工作機械がなければつくことはできません。工作機械は「ものづくり」を通して社会の発展に貢献しているにもかかわらず、残念ながら一般の方々にとっては直接見る機会はほとんどなく認知度が低いのが実情です。

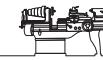
このような中、当社は工作機械をより多くの人に知ってもらい、ものづくりに対しての関心を高めるため、創業100周年記念事業として「ヤマザキマザック工作機械博物館」を2019年11月2日に開業いたしました。

博物館の開業に先立ち、11月1日に行われた「開業記念式典」には、行政・学校関係者をはじめ各方面の方々にご臨席いただきました。開業初日にはオープンと同時に多くのお客様にご来館いただき、親子連れの方々などで賑わいました。普段見慣れないレトロな工作機械や、大迫力の蒸気機関車などを皆さん熱心に見学されていました。



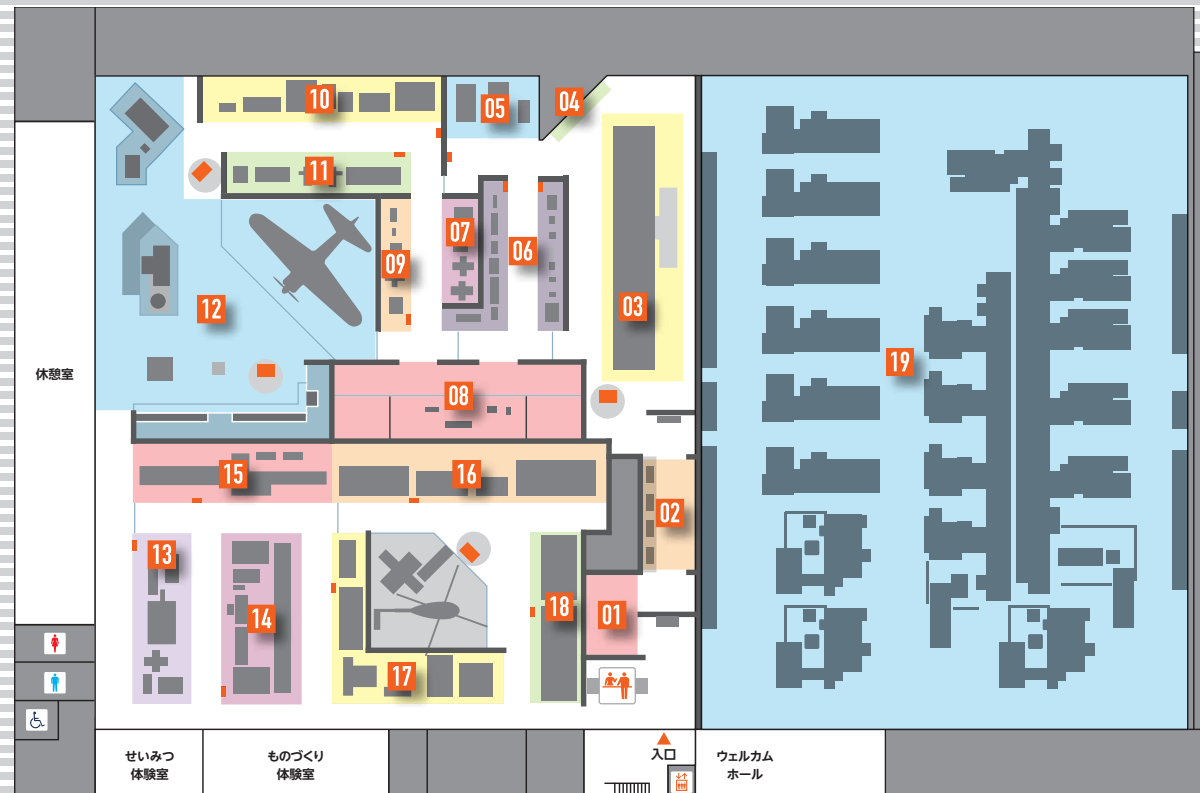
11月1日の開業記念式典、翌2日の開業初日の様子





## 館内マップ

- |                      |                             |
|----------------------|-----------------------------|
| 01 文化を創造する<br>工作機械   | 11 昭和初期の工作機械                |
| 02 人類と道具             | 12 工作機械でつくられた<br>工業製品       |
| 03 産業革命と<br>工作機械     | 13 1950～60年代の<br>日本製工作機械    |
| 04 4つの加工法            | 14 高度成長期の<br>汎用旋盤           |
| 05 平削り盤              | 15 工作機械をつくるための<br>輸入工作機械    |
| 06 人力式工作機械           | 16 NC時代の幕開け【1】              |
| 07 段車式旋盤             | 17 NC時代の幕開け【2】              |
| 08 段車工場              | 18 現在の工作機械                  |
| 09 段車式フライス盤・<br>ボール盤 | 19 Mazak iSMART<br>Factory™ |
| 10 直結式工作機械           |                             |



## 楽しく学べる体験コーナー

機械組立に使われる技術を体験できる「ものづくり体験教室」や、工作機械の精度を感じられる「せいみつ体験室」を併設。他にも金属加工の原理を紹介するコーナーを設置するなど、お子様が見て・さわって・楽しみながら工作機械を学ぶことができる博物館です。



## 省エネ地下博物館

地表から約11メートルの深さにあり、年間を通じて温度変化が少ない地熱を空調に活用する環境にやさしい省エネルギーの地下博物館です。外気を取り入れて、全長数百メートルの風洞の中を通過させることで、地熱によって冷却あるいは温められた空気が館内に入り、空気を入れ替えることで冷暖房の役割を果たします。



## 03 産業革命と工作機械



1940年につくられ、200万km以上を走行した蒸気機関車(D51409号)。実物だけではなく、AR(拡張現実)を活用した走行映像も楽しむことができます。

## 08 段車工場



ベルト掛け式の旋盤やフライス盤などが展示されている「段車工場」のエリアでは、約100年前の工場が再現されており、当時のものづくりの様子を感じることができます。

## 19 Mazak iSMART Factory™



工作機械の金属部品を生産する「自動加工工場(Mazak iSMART Factory™)」。IoTや自動化ロボットなどの先端技術を活用した、現代の工場を見学することができます。

ヤマザキマザック工作機械博物館は歴史的な工作機械の動態展示をはじめ、蒸気機関車や自動車、航空機など代表的な工業製品を併せて展示しています。また、見て・さわって・楽しむことができる体験型の博物館として、AR(拡張現実)を活用した展示や、工作機械の動作原理を分かりやすく体験できるコーナーなどを設けています。館内には現代の工作機械で構成された「自動加工工場(Mazak iSMART Factory™)」も併設し、実際に工作機械に使われる部品の製造を行なっています。IoTを活用した近未来的な工場を見学いただくことで工作機械の先進性を実感していただくことができます。

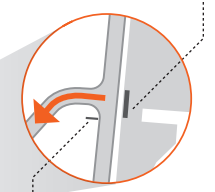
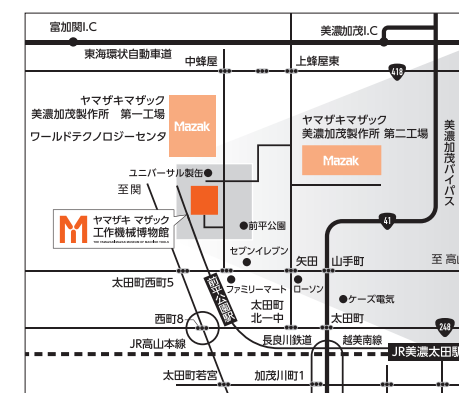
このようにヤマザキマザック工作機械博物館では「人びとの暮らしと工作機械との関わり」や「工作機械の仕組み」「工作機械の進化」をわかりやすく紹介しています。今後もこの工作機械博物館を通じて子供たちにもものづくりの大切さや楽しさを伝え、次世代の製造業を担う人材の育成に貢献して参ります。

## 利用案内

開館時間：10:00～16:30(最終入場は16:00まで)  
休館日：月曜日、年末年始  
(月曜日が祝祭日の場合、火曜日が休館日)  
入館料：一般 ¥500  
高校生・大学生 ¥300  
小学生・中学生 ¥200  
※学校からの団体申し込みの場合は無料  
所在地：〒505-0037 岐阜県美濃加茂市前平町3-1-2  
TEL：0574-28-2727  
FAX：0574-25-2129

【アクセス】  
■電車 …JR線「美濃太田」駅 経由  
長良川鉄道「前平公園」駅  
徒歩約10分  
■バス …美濃加茂市コミュニティバス  
“あい愛バス”  
「前平公園」下車  
徒歩約5分  
■車 …東海環状自動車道  
「美濃加茂IC」より約10分

詳細はホームページでもご確認いただけます！  
<https://machine-tools-museum.mazak.com>



※前平公園入口ゲートと、博物館案内看板が目印です





01

# Customer Report 01

## 鋼管部品のワンストップサービスを実現

● Japan 扶桑鋼管グループ

素材から加工まで——。機械構造用鋼管を手がける扶桑鋼管グループは卸売部門の扶桑鋼管(千葉県浦安市)や加工部門の扶桑チューブパーツ(石川県小松市)などのグループ企業で構成されています。創業以来培ってきた素材知識と加工実績、グローバル対応などにより、同分野ではオンリーワン企業と位置付けられています。鋼管を単なる素材でなく、加工を施した部品として納入する「素材+加工のワンストップサービス」を実現。他社と差別化する独自のビジネスモデルとして国内外から高く評価されています。



02



03



04

- 01. 段取り時間やリードタイムの短縮に貢献するINTEGREX e-500H
- 02. 機械と鋼管材が整然と並ぶ工場内
- 03. 複合加工機による加工で鋼管の付加価値を向上
- 04. 扶桑鋼管 江村社長(後列右から3人目)、FTP 河島社長(同2人目)と社員の皆さん

### COMPANY PROFILE



#### 扶桑鋼管 株式会社

代表取締役社長：江村 伸一  
本社所在地：千葉県浦安市 美浜1-9-2  
従業員数(グループ総計)：363名  
www.fusoh-kokan.co.jp



#### 扶桑チューブパーツ 株式会社(FTP)

取締役社長：河島 博之  
所在地：石川県小松市 矢田野町西32-2  
www.fusoh-kokan.co.jp/FTP

### 海外の実習生も理解しやすいマザトロール

扶桑鋼管グループの工場では現在、計41台の設備機が稼働。その中でマザック製の複合加工機INTEGREX e-500Hや立形CNC旋盤MEGA TURN 900M、レーザ加工機3D FABRI GEAR 220など15台が主要な加工工程を担っています。グループ内で加工を担うFTPの河島博之社長は「マザトロールCNC装置は海外からの実習生でも理解しやすく容易に使うことができます。またトレーニングスクールの内容などのサポート体制が充実していることもマザック機を選ぶ理由です」と語ります。



マザトロールは実習生も習得しやすい

扶桑鋼管は江村伸一社長の父が高度成長期に素材需要が丸棒から鋼管へと移りつつあることに着目し、1968年に設立しました。先行する他社との差別化を図るため、素材の在庫や調達にとどまらず、切断・機械加工・部品納入に至る一貫体制を構築。「この考え方はこれまでの業界常識を覆す革命」(江村伸一 扶桑鋼管社長 兼 扶桑チューブパーツ会長)でした。

2008年には機械加工を担う部門として扶桑チューブパーツ(FTP)を設立。これにより、今日の同社の強みである「素材+加工のワンストップサービス」が実現しました。

生産品目は工作機械、建設機械、土木工事、免震・制振装置用部品などが主力。「最近では産業界全体の自動化の流れを反映し、搬送機器やロボットなどの分野も増えてきています」(同)。



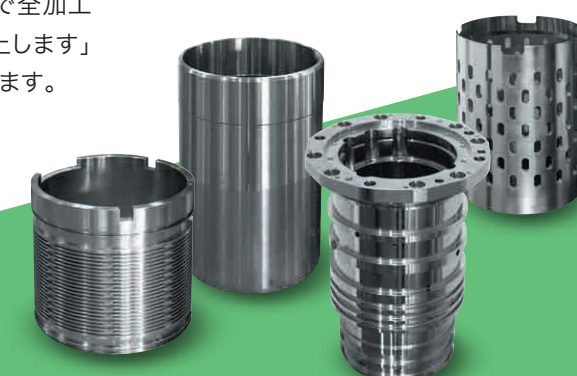
扶桑鋼管の強みを力強く語る扶桑鋼管 江村社長(左)とFTP 河島社長

海外ではタイ、インドネシア、中国に製造拠点を展開。FTPはそれらのマザー工場としても機能しています。また現地から実習生を受け入れるなど、グローバルな人材育成にも力を注いでいます。明るく活力のある職場は、独自の道を切り拓いてきた扶桑鋼管グループの社風を良く表しています。

複合加工機やCNC旋盤では工作機械用部品のモータースリップやハウジング、建設機械用部品の油圧シリンダーやプッシュなどを加工。レーザ加工機では建設機械のキャビン(操縦席)周りの構造部材などを手がけています。

FTPの阿部岳志取締役は「INTEGREX e-500Hは従来の3台分の仕事を1台で行うので段取り時間やリードタイムの短縮に貢献しています。ワンチャッキングで全加工が完了するので精度も格段に向上します」とマザック機の導入効果を説明します。

▶ 産業機械や建設機械などに組み込まれる高精度に加工された部品



鋼管の3次元加工に活用される3D FABRI GEAR 220 II

### 鋼管分野のオンリーワン企業として事業拡大

「当社は業界では後発ですから、よりお客様のニーズに目を向けた事業展開をする必要がありました」。江村社長は今やグループの看板でもある「素材の選定・調達から加工まで、お客さまのサプライチェーン全体を最適化するワンストップサービス」に踏み切った事情をそう明かします。

「お客様の要望に応じた提案や創意工夫ができるのは素材を熟知し、且つ加工もできる当社だからこそ。多種多様な素材の在庫があるので試作にもスピーディに応えられます」(江村社長)。

同社は、お客さま本位の経営姿勢により、同業他社と差別化する独自のビジネスモデルを作り上げることに成功しました。その結果、加工品をメーカーに直納できるティア1として扱われるなど海外でも高い評価を得ています。

扶桑鋼管グループは「素材調達+加工」によるワンストップサービスを軸に、機械構造用鋼管分野のオンリーワン企業として、今後もさらに事業を拡大していくでしょう。





01

## Customer Report 02

## ユーザー志向を徹底し、独自の地位を築く

## Japan 株式会社 リガーマリンエンジニアリング

「海のことなら海に聞け」を合言葉とする株式会社リガーマリンエンジニアリングは、ボート艀装品やマリンスポーツ用品を専業とするメーカーです。社名の「リガー」は艀装用品の一種で、自らもマリンスポーツやフィッシングを楽しむ小林義則社長の思いを込めたもの。マリン用品を知り尽くした小林社長ならではのニーズを的確に捉えた製品開発は、国内ボートメーカーやお客様から高い評価を得ています。独自のものづくりを支えるのは、機械加工から溶接、縫製までほとんどの工程を自社で行う一貫生産体制。マザック製品はその一翼を担っています。



Mie, Japan



02



03



04

01. マザック機で加工されたボート艀装品のジョイント  
02. 計3台のマザック機で社内一貫生産を推進  
03. ボートに取り付ける、釣り竿を固定するためのロッドホルダー部品  
04. 小林社長(2列目中央)、小林専務(同右から3人目)と社員の皆さん

## COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



## 株式会社 リガーマリンエンジニアリング

代表取締役：小林 義則  
専務取締役：小林 史明  
所在地：三重県いなべ市大安町南金井1732番地  
従業員数：20名

www.regar.co.jp



## オペレーターに優しいマザックロール

同社の手がける製品は最大でも年間3000個程度で、大半は1ロット五～数十個という典型的な多品種少量品の世界です。一品仕様の特注品も珍しくありません。「ベストセラーのボートでも造船数は年間140隻前後ですから、多品種少量生産にならざるを得ません」(小林史明専務)。

多品種少量生産の対応に加え、「即納対応」もマリン関係業界では重要視されています。このため、マシニングセンタ(MC)やCNC旋盤をはじめとする金属加工機械や工業用マシン等を揃えた一貫生産体制を構築。これにより、試作後すぐに形状や嵌め合いなどを確認し、1週間以内での製品化にも対応しています。



急なプログラム変更も容易なマザックロール

工作機械の主力機種として同社はマザックの立形MC、VERTICAL CENTER SMART 530CとCNC旋盤QUICK TURN SMART 300を2015年に導入。2016年には立形MC、VTC-530/20を追加しました。「洗練されたデザインと使いやすさに惹かれました。対話式マザックロールCNC装置での容易な加工プログラム作成は当社の生産形態にも合っています。マザックロールの操作性や画面の見やすさもオペレーターにストレスを感じさせない点で非常に優れていると思い

▶ 各種艀装品に取り付けられるジョイント部品(左)とロッドホルダー



ます」。小林専務はマザック製品導入の経緯をそう語ります。



ロストワックス部品の内径仕上げ加工

## 必要な製品を揃えれば利益はついてくる

「図面を引いてパイプを曲げるのは誰でもできます。しかし、ユーザー一人ひとりの好みや要望を踏まえた『痒い所に手が届く』製品は作れないはず。例えば、当社の大ヒット製品の一つに船に竿を固定するロッドホルダーがあります。勝手に竿が回転するなど、それまで多くのユーザーが困っていたことを解決した製品です。このように常にユーザー目線に立ち、時流をとらえた製品開発を心がけています」。小林専務は自社の強みをそう表現します。

「もともと好きなことをしたくて始めたので、売り上げ拡大は追求しません。社員の器を広げ、スキルを上げれば、良い製品や新たな仕事は自然に生まれてくると思っています」と小林社長。この言葉に続き、小林専務も「世の中に必要な製品を揃えれば、利益は必ず後からついてくる」と言い切ります。

今後の事業展開として、マリンの技術を生かせる二輪車関連への参入も視野に入れる同社。ふたりが大切にする「ユーザー目線に立った開発姿勢」は、新しい領域においても独自性の高い製品を生み出し続け、お客様の「欲しい!」に応えていくことでしょう。





## Customer Report 03

### 人材と設備への積極投資で、さらなる飛躍を

 Italy OEB S.r.l

各種レーシング部品をはじめ、医療用機器や航空機部品、包装機械などの製造を手がけるOEB S.r.l(エミリア・ロマーニャ州 モデナ、Alessandro Manzini会長)は、精密な加工を短納期で実現する力に定評があります。同社が得意とするのは、チタンやインコネル、ステンレスなど難削材を用いた複雑形状部品の加工。「さまざまな製品カテゴリにおいて、マザックの工作機械により加工効率が向上。新たな仕事の獲得にもつながりました」。Manzini会長は、同社の競争力がマザック機の活用により高まっていることを強調します。



- 01. 同社の「柔軟な対応力」を支えるマザック機
- 02. ワンチャッキング加工でリードタイム短縮と精度向上を実現
- 03. マザクトールの使い易さが、マザック機導入の決め手となった
- 04. INTEGREXの操作を担当する、社員の皆さん

#### COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



#### OEB S.r.l

会長 : Alessandro Manzini  
本社所在地 : via Circonvallazione, 9  
41031 Camposanto (Mo) - Italy  
従業員数 : 52名  
www.oeb srl.it

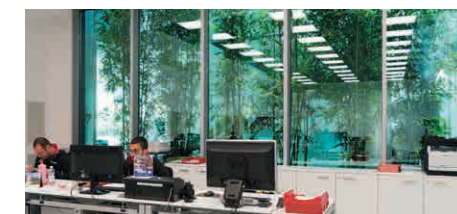


#### Customer Report 03 Italy OEB S.r.l

「柔軟な対応力」は、INTEGREXの活用によりもたらされていることを強調しています。

#### 競争力向上への投資を継続

さらなる成長を見据え、同社が重要視するのが、社員のパフォーマンスを高めるための「職場環境の整備」です。「快適な環境の構築は、会社の大切な資本である『人材』の力を引き出すための第一歩」と考えるManzini会長は、社員の働きやすさを中心に考えて社屋を設計。実際、整然とレイアウトされた工場や屋外の緑地が見えるオフィスなどは、社員のみならず大学・専門学校から受け入れる研修生にも好評のようです。



同社オフィスの窓からは緑がのぞく

同社ではこのような取り組みに加え、さらなる生産性向上のためのIoTへの投資を計画。Manzini会長は「IoT活用による生産管理システムの強化を通して、データ分析力を高めていく。生産設備を最大限に活用することで、モダンな生産活動を実現したい」と狙いを語ります。

これまでの飛躍の秘訣について「高い競争力を得たのは、偶然ではありません。情熱と知性、そして継続的なハードワークにより得られたものです」と語るManzini会長。ものづくりへの熱意と技術革新に向けた弛(たゆ)まぬ努力で、今後も同社は着実に成長のステップを登っていくことでしょう。

ソフトウェアの投資に振り向けるなど、先端技術の吸収を継続的に実施しています。

#### INTEGREXの活用で培う「柔軟な対応力」

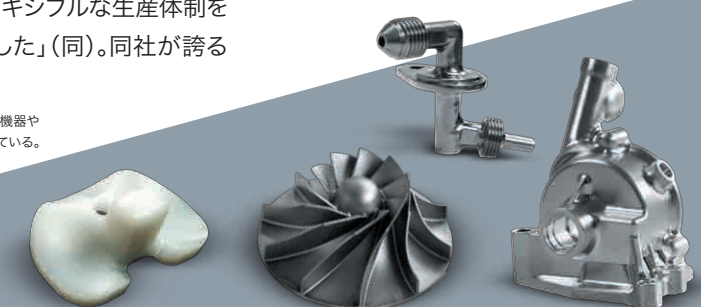
同社が初めてマザック機を導入したのは1993年に遡ります。「当時、イタリアで出回るNC装置の多くはプログラム方法が複雑でした。一方、マザックの対話型NC装置はプログラミングが非常に簡単でした。この点が決め手となり、当社が初めて導入したNC工作機械はマザック製にしました」(同)。以来マザック機は25年以上にわたり、レーシング部品や医療用インプラント、包装機械部品、航空機用エンジン部品などの複雑・精密加工に貢献しています。



同社手がけるF1マシンのパーツ

現在、同社に導入された全11台のマザック機の半数以上は、複合加工機INTEGREXが占めています。Manzini会長は「複雑形状部品のワンチャッキング加工が可能。リードタイム短縮と精度向上を同時に実現できる点が魅力」とINTEGREXの選定理由を語ります。「INTEGREXによる工程集約で、段取り時間を大幅削減したケースは実に数百にのぼります。複数の設備をわたり歩くことなく全工程が完了するため、注文を受けた翌日から納品可能となり、フレキシブルな生産体制を整えることができました」(同)。同社が誇る

▶ 精密に加工された複雑形状部品。  
モータースポーツのみならず、医療機器や航空機などさまざまな産業を支えている。





## 多様な経験を積み重ね、グローバルな活躍を目指す

製造から販売、アフターフォローまで、国内外にたくさんの関連拠点を展開するヤマザキマザック。MAZAK PEOPLEは、グループ各社の第一線で活躍する人々を取り上げます。

今回登場するのはワールドテクノロジーセンタ（以下、WTG）で、アプリケーションエンジニアを務める喜納ソフィアさん。世界中から多くのお客様が訪れるWTGで日々経験を積み、期待の若手女性社員です。

### PROFILE 喜納 ソフィア

2016年入社。半年間の研修を経て、新機種のパフォーマンスを担当する部署に配属。2017年にワールドテクノロジーセンタへ異動後、展示機の立上げ・お客様への製品PRを担当。

### ——マザックに入社を決めた理由は？

幼い頃に外国で生活していたこともあり、将来は海外と関わる仕事がしたいと学生の時から考えていました。就職活動を進める中でマザックというグローバル企業があることを先生から教わり、興味を持ちました。私は情報系の学科でコンピュータ言語を学んでいましたが、機械メーカーであるマザックでも勉強したことが生かせることを知り入社を決めました。

### ——どのような仕事を経験してきましたか？

最初に配属されたのは新機種の性能評価を担当する部署であり、私はQUICK TURNのミルホルダの評価試験を担当しました。評価を行うために必要な工具や材料の準備から始まり、加工プログラム作成、実加工、加工後のレポート作成など、評価業務の一連に携わりました。

2017年にWTGのテクニカルソリューションチームへ異動、現在はWTGの展示機や各地で行われる工作機械見本市の展示機の立上げ業務、来訪されたお客様に対する製品PRを担当しています。



チームでデモンストレーション用のワークについて打ち合わせを行う

### ——これまでの業務経験の中で、何を学びましたか？

社内外を問わず、他の方に自分の考えを正しく伝え、行動を起こしてもらうためには「文章力」が重要であるということを学びました。

このことは、新機種の評価を担当していた頃に痛感しました。評価試験の結果を設計担当者や製造担当者に理解してもらい、改良に向けた行動を起こすには、誰もが納得するような説明が必要です。配属当初は説得力のあるレポートの作成に大変苦労しましたが、さまざまな資料作成を通して書く力を磨きました。

また、文章を組み立てる能力は、お客様に対する製品PRを行う現在の業務にも生かされていると感じています。今は文字ではなく口頭での説明が中心ですが、どのような順序でお話すれば伝わりやすいかを頭の中で常に組み立てながら、お客様と接することが可能となりました。

### ——やりがいを感じる時は、どんな時ですか？

展示機が立上がるまでの一連の業務を、短期間でやり遂げた時にやりがいを感じます。新機種の場合、展示機の立上げ業務に掛けられる期間は1〜2ヵ月と大変短いのが通常です。限られた時間の中で、新機種の魅力をどのように伝えるかを上司に提案した後、加工プログラムを作成し、材料・工具などを滞りなく手配することはプレッシャーを感じることもあります。新機種発表日の直前にデモンストレーションの内容を変更しなければならないことも時にはありますが、全てが上手くいったときはこれまでの苦労も忘れるほど大きな達成感で満たされます。今まで10機種ほどの立上げに携わりましたが、このような経験を重ねられるアプリケーションエンジニアの仕事が大変気に入っています。

### ——今後の目標は何ですか？

これまでは展示機の立上げが主な業務でしたが、今後は展示ブースそのものの立上げにも携わってみたいです。JIMTOF会場でマザックブースが立上がるプロセスを目の当たりにした時、何も無い状態から綺麗なブースが出来上がっていく様に感動したことを

覚えています。お客様にも感動いただけるような、レイアウトや装飾に趣向を凝らしたブースの制作に力を注いでみたいです。

また、学生時代からの夢でもある「海外と関わる仕事」の機会も増やしていきたいです。アプリケーションエンジニアとしての多様な経験を積み、将来的には海外での業務も任される人材になるのが目標です。そのためには語学力も重要であり、現在は英語・ポルトガル語・スペイン語を習得していますが、中国語もしくはフランス語の勉強も始める予定です。

「今の自分ではわからないこと・できないことは謙虚に認め、ためらうことなく周囲の力を借りる。常に明るく、笑顔を絶やさない」をモットーに掲げる喜納さん。その素直で前向きな姿は、アプリケーション部に欠かせない存在となっているようです。将来は国内のみならず海外の拠点においても、チームのムードメーカーとしてポジティブな影響を与えていくことでしょう。

### 休日の過ごし方

最近、キングハムスター（♀）を飼い始めました。名前はジェニファーです。休日には、初任給で購入したお気に入りのカメラでジェニファーを撮影し、心を癒しています。



## News & Topics 新製品紹介

## 新型複合加工機「INTEGREX i-Hシリーズ」



自動化ニーズへの対応力を高めた新型複合加工機「INTEGREX i-Hシリーズ」。2019年11月に当社ワールドテクノロジーセンタで開催されたDISCOVER2019で「INTEGREX i-200H S」を出展し、大きな注目を集めました。

INTEGREX i-Hシリーズは機械本体正面に凹凸の少ないフラットなデザインを採用し、多関節ロボットや素材ストッカなど周辺機器との接近性・連携性を大幅に向上、省スペースな自動化システムの構築を可能としています。機械構造においても、拡張性を高めたツールマガジンを採用したほか、従来より仕様を向上させた下刃物台やチャック爪自動交換装置のオプション搭載を可能としています。これらによりツールやチャック爪の交換作業に付随する機械停止時間を削減、連続運転性能を向上しています。

INTEGREX i-Hは、新型CNC装置「MAZATROL SmoothAi」

を搭載。多関節ロボットのティーチング作業を支援する機能などにより、自動化システムのスムーズな立上げ・運用を可能としています。また、AI（人工知能）を活用したプログラミング簡易作成機能や加工条件の自動補正機能などにより、生産リードタイムの短縮を実現しています。



ワールドテクノロジーセンタで開催されたDISCOVER2019で、INTEGREX i-200H Sを出展



ヤマザキマザック美術館は、美術鑑賞を通して豊かな地域社会の創造、ひいては日本、世界の美と文化に貢献すべく、名古屋の中心地・東区葵に、2010年4月に開館致しました。

当館は、創立者で初代館長の山崎照幸(1928-2011)が蒐集した18世紀から20世紀にわたるフランス美術300年の流れを一望する絵画作品及びアール・ヌーヴォーのガラスや家具等、ヤマザキマザックのコレクションを所蔵・公開しております。

みなさまのご来館をお待ちしております。



## 所蔵作品ご紹介

THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART

## エミール・ガレ 《松文花器》

曲線を描きながら上へ向かってぐっと開いた形の花瓶。その形に添うように、堂々とした松の木が枝を伸ばしています。薄茶色の地に黒々と浮き彫りで表された松の表現には、日本の水墨画のような味わいがあり、力強い生命力が感じられます。松の根元の暗がりには大きなキノコが生えている様子が表されており、昼なお薄暗い森の中の情景のようです。

この花瓶の作者はエミール・ガレ。19世紀末～20世紀初頭に活躍した天才ガラス工芸家で、ナンシーというフランス北部の街を拠点としていました。一時期のナンシーには日本人画家、高島北海(たかしま ほうかい)が滞在しています。ガレは北海と交流があり、日本の浮世絵にも興味を持っていたそうです。松の表現が日本画風なのはその影響なのかもしれません。ガレは1904年58歳の時、白血病で亡くなりました。死期が迫っていた最晩年に制作されたこの花瓶には、松の生命力に憧れるガレの思いがこもっているようです。

エミール・ガレ(1846-1904) 《松文花器》 1902-04年



## フランスに生きた日本人画家 木村忠太の世界

KIMURA — un peintre japonais en France



(セーヌ河畔) 1975年 油彩・キャンバス ヤマザキマザック株式会社 © ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2019

色と線の美しい記憶

2019/11/15 [金] - 2020/3/8 [日]

◎ 開館時間：平日10:00～17:30(最終入館17:00)、土日祝10:00～17:00(最終入館16:30)

◎ 休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日休館)、年末年始(12月28日～1月3日)

◎ 入館料：一般1,200円(10名様以上1,000円)、小・中・高生500円、小学生未満無料

香川県高松市に生まれた木村忠太(1917-1987)はフランスに生き、フランスで活躍した画家です。1953(昭和28)年、36歳の時にフランスに移り住み、南フランスやパリの風景を描き続けました。現実の風景を題材としながらも、華やかな色彩と自由自在な線によって、光の中で移ろう風景の記憶を画面に捉えました。色彩に満ちた画面の中に、人物や家、木々、道、自転車、車などの形が奔放な線によって浮かび上がり、美しい余韻となって心に残ります。

ヤマザキマザック美術館の創立者、故・山崎照幸は18-20世紀のフランス美術を収集する一方で、国内の同時代の美術にも目を向けており、木村忠太の絵画をことに高く評価していました。美術雑誌『美術手帖』のインタビューで「フランスの画家になりきっている。世界の檜舞台で通用する数少ない画家のひとりです」と語っています。

今回の展覧会では、山崎照幸が収集した《セーヌ河畔》、《風景：村》、《庭》の3点の他に、愛知県美術館・三重県立美術館・豊橋市美術館・公益財団法人かみや美術館の所蔵作品、個人蔵作品を合わせた58点を展示し、木村忠太の創作世界をご紹介します。

🔊 音声ガイド無料サービス